

受入自治体：北海道登別市
氏名：徐 菁
出身国：中国
研修先：登別市役所



1. はじめに

私は中国の重慶市人民政府外事弁公室に勤めています。外事弁は重慶市市役所の直属の国際交流活動に従事する部門として、日本をはじめ世界各国の政府、民間との交流に重要な任務を担っています。重慶市は日本の広島と水戸と友好都市であり、日本と緊密な繋がりがあります。

今回、平成21年度自治体職員協力交流事業協力交流研修員として来日し、幸運にも北海道登別市役所が受入れてくれました。専門研修は観光です。

私は小学生の時、日本のテレビドラマが好きだったので、日本の文化について知っていました。今回この事業に参加して、日本の文化や社会にどっぷりと浸ることができ、貴重な機会を得たことを大変光栄に思います。

2. 研修の概要

(1) 全体研修

東京研修(5月24日～26日)

来日の翌日から、各国から集まった研修員が東京で全体研修を受けました。研修内容は、オリエンテーション、日本生活マナーの講義、受入れ自治体の担当者との面談、国会議事堂と東京都廃棄物処理場の見学でした。大変忙しい3日間でしたが、有意義で楽しかったです。

JIAM(全国市町村国際文化研修所)研修(5月27日～6月23日)

全体研修後の一ヶ月間は、滋賀県大津市の全国市町村国際文化研修所で、日本語、地方自治体制度、文化、生活マナーなどについて理解を深める為の研修を受けました。私のクラスは「弥生」です。優しい先生が皆に面白い日本語を教え、クラスメートも一生懸命勉強したので、最後の発表会では、三位になり大変嬉しかったです。また、研修中に琵琶湖や京都の金閣寺、二条城、清水寺などを見学しました。ここJIAMで受けた研修は、その後の登別市での専門研修に必要な能力形成にとっても有効であり、充実したものでした。

東京秋季研修(10月15日～16日)

この二日間は、全ての研修員が四ヶ月ぶりに再び東京で会い、専門研修の成果と日本での研修体験などについて、発表や意見交換をしました。翌日は江戸東京博物館を見学し、日本の文化と歴史への理解を一層深めることができました。研修員たちは一生忘れることがない友情を結び、皆で撮った記念写真は永遠に保存しようと思います。

(2) 専門研修

一般行政研修(6月25日～7月31日)

6月25日から、北海道登別市役所で一般行政研修を始めました。一般行政

という広い分野の研修は、企画や人事、総務、情報推進、財政、社会福祉、建築、教育など市役所の業務全般にわたって各グループから概要の説明を受けました。クリンクルセンター、学校や公園、老人福祉センター、市営住宅など様々な施設を見学しました。

観光研修（8月3日～10月10日）

私は8月から、約三ヶ月間、登別市観光経済部観光振興グループで観光行政研修をしました。

A：登別温泉での研修

登別温泉は、「湯の国」と呼びます。登別温泉の大きな魅力は、9種類の温泉が湧出していることから「温泉のデパート」とも呼ばれており、世界的にも珍しく、日本の貴重な財産といえます。研修中に、私は登別温泉の全ての観光スポットを見学しました。また実務研修を、登別伊達時代村、水族館である登別マリパーク及び登別グランドホテルで行ないました。「登別ボランティアガイド養成講座」にも参加し登別市の歴史や方言、文化遺産について深く理解しました。



登別温泉最大の見所「地獄谷」にて

また、地元で行なわれた大変有名な「地獄祭り」には大勢の観光客に混じり、始めて日本の浴衣を着て参加し、鬼花火と日本伝統の太鼓演奏を見て、大変感動しました。多くの祭りやイベントへ参加したことにより、北海道観光に有効な宣伝手法を理解しました。

B：出張

専門研修中、私は出張する機会が何度かありました。7月13日、登別市観光協会の職員と初めて札幌へ行き、北海道観光推進キャンペーンに参加し、香港、シンガポール、タイやマレーシアなどの旅行社のスタッフに登別の観光名所を紹介しました。9月30日～10月1日、「首都圏中学校修学旅行誘致プロモーション」で、東京、横浜の数件の中学校を訪問し、北海道西振胆の観光名所や修学旅行施設などについて説明会を開催し北海道に対する理解を深めてもらいました。



北海道観光推進キャンペーンにて

C：道内外視察研修

北海道は、外国人のみならず日本人にも、人気がある観光名所です。去年、中国で放送された映画は、北海道の道東で撮影され、その美しい景色が多くの中国人を魅了しました。そのため、道東は中国人が一番訪れたい所です。この五ヶ月間に、北海道内外を視察する機会が多くあり、有名な観光地を訪問することができました。7月には、ラベンダーが美しい富良野、運河が有名な小樽そして今大変な人気があ

る旭山動物園に行きました。10月には、千葉県の木更津市へ、また11月には、道南の函館市を訪れました。函館は洋風と和風の古い建物が、大変良い状態で保存され景観が素晴らしいと思いました。とにかく、どこを訪れても「北海道はいつでも日本一の観光地」ということができます。

3．日本と中国文化の交流

7月1日、北京第12中学校の生徒が登別市のごみ処理施設「クリンクルセンター」を見学しました。私は、登別市のごみ分別処理を紹介したり登別市長の挨拶を通訳しました。また、取材に訪れたNHKテレビのスタッフに、学生が登別温泉に滞在した感想を説明しました。この仕事をしたことで、私自身も登別の環境保全や資源節約などについて理解を深めました。

8月から、毎週2回市役所の職員に簡単な中国語を教えました。中国の文化、旅行の基本情報、習慣も含めて紹介しました。日本語での説明が難しく最初は、大変緊張しました。皆まじめな学生で中国の文化に興味を持っています。講座を終了し、皆は簡単な会話と挨拶が話せるようになり、私はとても嬉しいです。研修の締めくくりとして、市民に中国伝統料理を教えました。

4．感想

研修期間を通して、日本はごみの分別処理、資源の再利用やエネルギーの節約に力を入れていると分かりました。ごみ処理のプロセスは、ごみの分別から始まり、様々な種類ごとに収集日を定めます。今、中国では、ごみを分類して処理することを試験的に行っていますが、国民の節約意識が強いとは言えず、中国で、日本式分別収集について大いに宣伝する必要があります。また、観光については、日本では観光客誘致のプロモーション活動に力を入れていると思いました。中国人にとり、日本は大変人気がある訪問国です。今年7月から、北京、上海、広州の市民は日本の自由旅行ビザが取得しやすくなりましたので、より多くの中国人観光客が日本を訪れることと思います。

5．終わりに

「湯の国」での五ヶ月の研修は終了しました。この間、様々なことを学び登別の人たちに大変優しくそして親切に接してもらいましたので、滞在期間は瞬時に過ぎました。この研修は重要な人生体験と得難い経歴になり、今後の仕事にも大いに役立つと確信しています。日本人の勤勉さや時間を厳格に守ること、また美しい景色などは深く印象に残りました。帰国後は、日本の研修生活を友達に詳しく話し、先進の技術や登別市を重慶市に宣伝します。今後は重慶市と登別市の友好交流、日本と中国の交流において、微力ながら尽くつもりです。

最後になりましたが、研修にご指導、ご協力をいただきました総務省、クレアの皆さん、登別市役所の皆さん、日本の友達に、心から感謝し厚くお礼を申し上げます。本当にお世話になりました。ありがとうございました。また再会できる日を楽しみにしています。